授業科目名	臨床薬理学	担当教員	和田孝一郎 （他　日程表に記載）
開講年次･学期	3年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	20時間（＋試験２時間）

学習目標

　臨床薬理学とは、薬理学を基にして「科学的かつ合理的な薬物治療」を確立することを目的とする学問領域です。それゆえに本講義では単に薬物作用を学習するだけではなく、薬物動態、薬物相互作用、薬物有害反応、遺伝薬理学、臨床試験などを系統的に学習し、臨床薬理学的な思考方法を身に着けることを目的としています。

ディプローマポリシーとの関連

問題解決・自己研鑽能力
7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。
（薬物治療は日々新しい情報が更新されるため、生涯にわたり新しい情報を取り入れ自己研鑽していくことが必要となります。）

知識を統合し活用する能力
8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。
（薬物治療は単に薬の知識だけではなく、様々な分野の知識を統合し応用していく能力が必要となります。）

学修成果（到達目標）

〇多剤併用と薬物相互作用について説明できる。
〇年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。
〇薬物代謝について詳しく説明できる。
〇副作用と有害事象の違い、主な薬物の有害事象、報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。
〇インフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。
〇臨床試験・治験と臨床研究の違いを説明できる。
〇薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。
〇薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。
〇主な薬物アレルギー・アナフィラキシーショックの症候、診察、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。
〇麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
〇処方箋の書き方、服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。
〇ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。
〇抗ウイルス薬、免疫関連薬、排尿障害治療薬、などの薬物について説明できる。
〇薬害について説明できる。

キーワード

臨床薬理学、応用薬理学、薬物治療学、薬物相互作用、薬物有害作用、臨床試験、臨床研究

授業の進め方

基本的に講義を中心とするが、必要に応じて特別講義や各講義に関するレポートを課す場合がある。

評価方法

総括評価
・ 本試験：対面型筆記試験を予定しているが、実施その他、試験の形式については新型コロナウィルスの感染拡大状況によっては変更する場合がある。
・上記試験に加えて特別講義レポートなどのレポートを点を加味し総合的に判断する。
・再試験について：　再試験は特に予定していないが、場合によっては1回のみ行う場合がある。

合否基準

本試験・レポート点等を加味し総合的に判断する。総得点の60%以上の点数を獲得できたものを単位認定とする。

教科書･参考書

教科書は特に指定しないが、可能であれば以下にあげる教科書・参考図書のいずれか最新版を用いるのが望ましい。
1）「ハーバード大学講義テキスト：　臨床薬理学」　Golan DE（編集）・渡邉裕司（監訳）丸善出版
2）「ハーバード大学テキスト：病態生理に基づく臨床薬理学」　Golan DE（編集）・清野　裕（監修）メディカル・サイエンス・インターナショナル
3）「NEW薬理学」　田中千賀子・加藤隆一（編集）　南江堂
4）「グッドマン・ギルマン薬理書　上・下巻　薬物治療の基礎と臨床」　Brunton LL（編）・高折修二（監訳）　廣川書店
5）「カッツング薬理学」　Katzung BG（著）・柳澤輝行（翻訳）　丸善出版
6）「リッピンコットシリーズ　イラストレイテッド薬理学」　Harvey RA（編）・柳澤輝行（監訳）丸善出版
7）「ラング・デール　薬理学」　Rang HP（著）・樋口宗史（監訳）　西村書店
8）「ラング・デール　薬理学　原書８版」　Rang HP（著）・渡邊直樹（監訳）　丸善出版
9）「カラー　新しい薬理学」　石井邦明・西山成（監修）　西村書店
10）「標準薬理学」　鹿取信（監修）　医学書院
11）「医科薬理学」　遠藤政夫（編）　南山堂
12）「ローレンス　臨床薬理学」　Bennett PN（著）・大橋京一（監訳）　西村書店

上記の教科書のうちいくつかは英文原書も日本で発売されており、入手可能である。参考までに下記にあげておく。英語力があり興味のあるものは読んでみることをお勧めする。
1）「Principles of Pharmacology: The Pathophysiologic Basis of Drug Therapy」　Golan DE.(Ed.) Lippincott Williams & Wilkins
2）「Goodman & Gilman’s The Pharmacological Basis of Therapeutics」　Brunton LL.(Ed.) McGraw-Hill
3）「Basic & Clinical Pharmacology」　Katzung BG.(Ed.) McGraw-Hill(a LANGE medical book)
4）「Lippincott’s Illustrated Reviews: Phamacology」　Harvey RA.(Ed.) Lippincott Williams & Wilkins
5）「Phamacology」　Rang HP.(Ed.)　Churchill-Livingstone

オフィスアワー

質問等　講座HP お問い合わせよりメールでお問い合わせください。

コア・カリとの関連

C-3-3) 生体と薬物
C-3-3)-(2) 薬物の動態
F-2-8) 薬物治療の基本原理
薬物治療の基本（薬理作用、有害事象、投与時の注意事項）
その他
B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>
研究デザイン、介入研究
B-3-1) 倫理規範と実践倫理
臨床試験・治験と倫理性、GCP、IRB、薬物に関する法令、医薬品の副作用
C-4-1) 遺伝的多様性と疾患
薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性
など

備考

［本学常勤職員］
◆薬理学講座：
教授　和田孝一郎
准教授　岡本　貴行
助教　臼田　春樹
◆附属病院薬剤部：
教授　直良 浩司
◆附属病院臨床研究センター
教授　大野　智
［嘱託講師］
◆齊藤　源顕：　高知大学医学部　薬理学講座　教授

［特別講師］
◆小山　昇孝：　大阪HIV薬害訴訟原告団　薬被連担当